

創造からの警鐘



巻頭言

三浦喜温*

科学，それは人類の理想への創造であり，神から与えられた試練でもある。

人類の限りなき英知と，幾世紀にもわたる努力により，科学はめざましい発展を遂げ，現代の人間生活の向上のため，あわゆる面において貢献してきた。私達は多くの科学の成果の中でますます便利な生活を愉しめるようになり，遂に人類は科学を駆使することにより，自然をも征服し，不可能なことはないとまで自負するようになってしまった。例えば人間の英知が生んだ石油化学は人間生活の衣食住のすべての分野に偉大な貢献を果してきた。石油化学製品は他の天然物よりも優れた多くの特長を持ち，天然物よりも好んで使用される例をあげれば，枚挙にいとまがない。また石油は現代文明が駆使しやすいエネルギーとして，現代の人間生活を支える最も大きいエネルギー源となっている。

しかしその便利さの故に石油エネルギーの使用量は年々増加の一途をたどり，その大量消費が大気中の炭酸ガスを増大せしめ，世界の気象に変動を引き起こすと，世界気象機関(WMO)は警告を発している。また石油消費量の急激な増加は炭酸ガスだけでなく大気中

の硫黄あるいは窒素酸化物の増大を来たらし，それが森林等に多大の被害をもたらす酸性雨の原因ともなっていると言われている。このような警告を待つまでもなく，エネルギー危機を単に石油埋蔵量の減少とのみ捕えることが実は真の危機であることに，われわれは気づかなければならない。地球環境の問題を無視してエネルギーの問題を語れないまでに，その消費量は増大しきっている。このようなことを考える時，今や人類は自然環境の調和を第一に考えたクリーンなエネルギーの開発の必要に迫られていると言えるであろう。

神から与えられたこの偉大な自然の中において，人類はもっと謙虚に科学とは何かをもう一度考えなおしてみる必要がある。科学の目的は言うまでもなく真理の探求である。その過程において，あるいはその結果において幾多の創造が生まれるものである。しかし時として創造を急ぐあまり，科学本来の目的を後まわしにする場合があるのではなかろうか。その創造が真理の探求に，理想の実現に真に役立つかどうか，絶えず念頭においておかなければならないと，今さらながら反省させられるものである。

*三浦喜温 (Yoshiharu MIURA)，大阪大学薬学部，薬学科，薬品製造工学教室，教授，薬学部長，工学博士，生物化学工学